



# 近江の石造宝篋印塔

## 徳源院石造宝篋印塔

山東町清滝に京極家佐々木氏の菩提寺徳源院があります。本堂裏の土堀に囲まれた墓所（国指定史跡）には、35基の石造宝篋印塔（以下「石造」を省略します。）が上段・下段に分かれてずらりとならび荘厳な景観を呈しています。この石塔群は、鎌倉から江戸に至る各時代のものが揃っているのです、その型や移りかわりを研究するには好都合です。ここで宝篋印塔について少し調べてみることにします。

宝篋印塔は、10世紀ごろ中国の呉越王銭弘俶<sup>せんこう</sup>が阿育王造塔の故事に習って八万四千の塔を造り、それに宝篋印心呪経を納めて諸国に配布したことにはじまるといいます。日本にも同型の小塔が伝わって、平安時代には小塔供養がはやり、鎌倉時代になって墓碑・追善塔として大型の石造りが始められるようになると、五輪塔と共にわが国石造美術界の王者になりました。

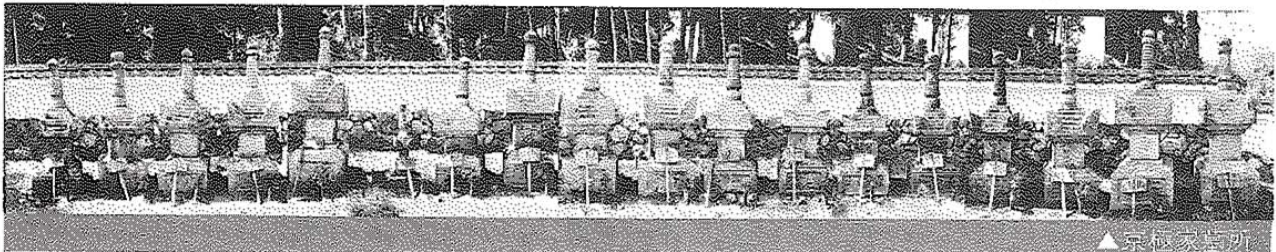
さて、京極家墓所の石塔群をよくみると、宝篋印塔には共通した外観構造のあることに気がつきます。構造は、下から基礎・塔身・笠・相輪と積みあげられています。層塔や宝塔との違いは笠の形で、これが宝篋印塔の特色です。笠は、段のある屋根と軒からなり、その笠の四隅に突起（隅飾り）があります。屋根は、6段になっているものが普通ですが5段、7段のものもあります。隅飾りには、

茨1弧のもの（馬耳状）や、2弧・3弧のものがあります。基礎は、上部が2段（2段式）のものや蓮弁を飾っている（反花式）ものもあって、その側面は宝塔と大体同じです。塔身は、層塔の初重軸部と同じ四角柱で、梵字を陰刻したものや仏像を陽刻したものがあ

ります。この京極家墓所の上段には18基の塔が並び、向って右から11番目の高広塔が無銘ですが最も古く、笠の隅飾りが茨1弧で軒と続き直立した馬耳状で、宝篋印塔の原型を保っています。銘のあるものでは、1番右端の氏信塔が永仁3年（1295）で古く、12番目の高吉塔が天正9年（1581）で一番新しいものです。これら18基の塔の基礎・塔身・笠などの巾や高さを比較し、宝珠の形などを調べると、大體時代分けができます。総体に基礎の低いものや塔身の高いものが古く、宝珠の低く蕪形に近いものが古いことなどがわかります。

## 立派な二つの塔

立派な宝篋印塔の一つに竜王町鏡の鏡神社宝篋印塔（重文）があります。国道8号線から竜王織維の門前を右手の山にはいると、小堂の裏に一見して塔身にあやしい鳥が飾ってある塔を前にして驚かれることでしょうか。これが宝篋印塔の原型に近いものなのです。この塔は花崗岩製で、基礎から笠上までの高さは1.55メートルあり、相輪は、失なっていたらしく、これを補うため同時代の他塔のもの

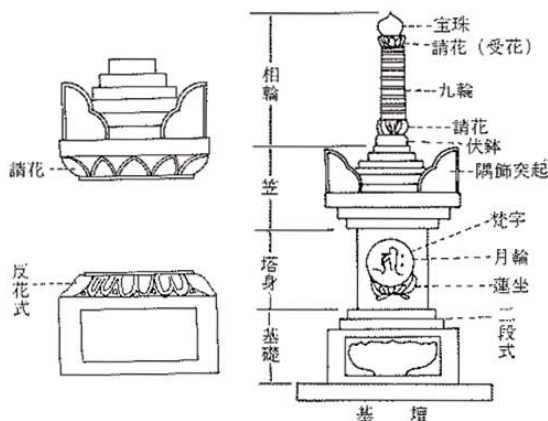


▲京極家墓所



を利用しています。基礎の側面のうち2面には、格狭間内に向い合う孔雀を陽刻し、上部は反花坐を高くつくり出して塔身をうけ、塔身は四隅に鳥形を彫り出し、4面に蓮坐上月輪の内に金剛界の四仏の梵字を大きく刻んでいます。笠は軒下2段・屋根6段で、隅飾りは少し外に傾斜して立ち、茨3弧をつくり、輪郭をまき、月輪の内正面にバン（大日）、他の面はア（地藏）の梵字を刻んでいます。また屋根6段のうち3段目で2石を上下に合わせ積んでいます。このように細工がこまかく鎌倉時代中頃の優秀品です。昭和50年末、県教育委員会が実施した修理のとき、塔下が石室になっていることが分り、そこから土器や骨壺の破片が出土しています。

蒲生郡には、鏡神社宝篋印塔と肩を並べる比都佐神社宝篋印塔（重文）が日野町十禅寺にあります。花崗岩製で高さ1.7メートル、基礎は2段式で、4側面のうち2面に鏡の塔と同じように孔雀を飾り、他の1面に開花蓮を陽刻、いま1面は格狭間のみとしています。塔身には胎藏界の四仏の梵字を月輪内に陰刻し、笠は屋根が7段になり、隅飾りは茨3弧を大きくつくっています。この塔には塔身から基礎まで文字が刻まれ、嘉元2年（1304）に造塔し、水晶塔2基と法華経を塔内に納めたこと、また、天和3年（1682）に納入品は失ったが塔を再建したという追記までしています。鏡の塔を華麗な武士の礼装姿とすると、これは質朴な古武士の普段着の姿を感じさせます。



▲宝篋印塔

## 銘のある塔

県下で一番古い紀年銘のある宝篋印塔は、中主町比江の江竜寺宝篋印塔（弘安2年・1279）です。惜しいことにはこの塔は完全に揃っていません（残欠といえます）。次に古いのは栗東町高野の新善光寺宝篋印塔（弘安3年・1280）です。

完全に残っている塔としては、八日市市柏木町の正寿寺宝篋印塔があります。高さ1.77メートルで花崗岩製、基礎は2段式で、側面の格狭間の茨が一つであることは珍らしく、塔身には4面に舟形光背をうがち、内に如来坐像を陽刻しています。笠は5段で、隅飾りは直立し、茨2弧ですが古い馬耳状風の面影を残して、輪郭の内に蓮坐上月輪を薄肉に作り、それぞれに梵字を陰刻した丁寧なものです。相輪も重厚感があってこの塔を一層ひき立たせています。銘は、基礎に正応4年（1291）と刻まれています。

造塔の事情を刻んでいる塔を2・3挙げますと、八日市市妙法寺町の薬師堂宝篋印塔は、



▲鏡神社宝篋印塔

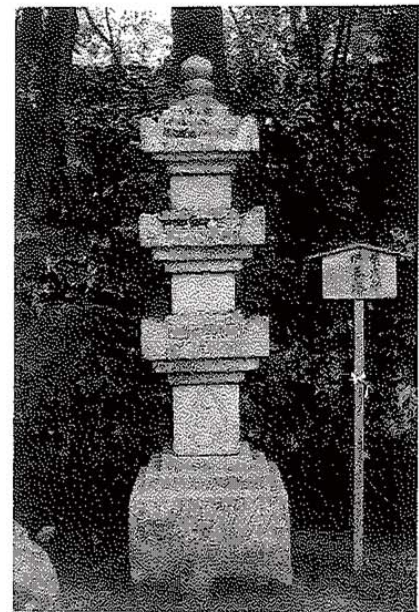




▲阿弥陀寺宝篋印塔



▲真照寺宝篋印塔



▲石山寺三重宝篋印塔

永仁3年(1295)の銘がある荒叩き仕上げの古風な塔で、塔身に年号と吉田西円が親の成仏得道のために造立し、安主野神・雑賀の所領を供養寄進したことを刻んでいます。正安2年(1300)の銘がある竜王町弓削の阿弥陀寺宝篋印塔には、藤井重宗が、造塔にあわせて田地1段を寄進することが刻まれ、また、大津市葛川坊村町の明王院宝篋印塔は、正和元年(1312)に明王院の僧頼玄が葛川4ヶ村の念仏講衆の協力で造立したことを刻んでいます。このように銘の刻まれた宝篋印塔は、中世の信仰事情などを知る上に貴重な資料になります。

#### 軒下請花の塔

宝篋印塔の笠の軒下は、2段になっているのが普通ですが、軒下に蓮弁を飾っている珍しい塔もみうけられます。蒲生町木村の柳宮神社宝篋印塔は、現高93センチメートル(相輪を失っています)で、基礎は2段式で側面の3面は肩さがりの格狭間内に開花蓮を陽刻し、笠は軒下に単弁の蓮弁を飾っています。笠の隅飾りは茨2弧で少し外側に傾き、南北朝時代の造塔と推定されます。同町外原の正養寺宝篋印塔も軒下を蓮弁で飾っています。塔身と相輪は失われたらしく他の塔のもので、反花式の基礎に康永4年(1345)と南北朝時代の銘が刻まれており貴重なものです。

そのほか、永源寺町箕川の永昌寺や愛知川町東円堂真照寺の塔も同じ形式の立派なものです。

#### 石山寺三重宝篋印塔

石山寺の多宝塔に登る石段の左手、芭蕉の句碑に並んで紫式部供養塔と呼ばれている鎌倉時代の三重宝篋印塔(重要美術品)が建っています。花崗岩製で高さ2.44メートル余。基礎は2段式ですが、側面は飾りのない古風な作りです。塔身は高目で、四方の舟形光背の中に仏像を陽刻し、笠は、3重とも軒下2段で、屋根は3段に造り出しています。隅飾りも、3重ともに軒先から造り出し、茨は1弧で馬耳状に作っていますが、あまり高くないのが特徴です。上層の笠は1石で造られ、笠の上に大きな露盤や請花・宝珠を造り出しています。三重塔なので、初重・二重の屋根を2段にしたり隅飾りを低くしたり相輪を宝珠だけにしたりして、外見の美しさや安定感をだすことに工夫のあとがしのべられます。

#### むすび

滋賀県内で調査した宝篋印塔は260基をこえます。そのうち、年号の刻まれているものが52基あり、構造・意匠からみても変化に富んでいるものが沢山あります。これらは今後の研究にたいへん役立つ貴重な資料です。

(宇野健一氏提供)



## 近江の宝篋印塔一覧表（抄）

昭和51年4月現在

種別	名 称	所 在	所 有 者	時 代	備 考
重文	石山寺宝篋印塔	大津市石山寺一丁目	石山寺	南北朝	二段式
市文	石造宝篋印塔	" 上田上大鳥居町	浄土寺	鎌倉	二段式
市文	宝篋印塔	近江八幡市東川町	東川町	鎌倉(正和4年)	反花式
市文	"	" 上田町	篠田神社	鎌倉(正安3年)	壇正積反花式
市文	"	八日市市柏木町	正寿寺	鎌倉	二段式
市文	"	草津市青地町	無量寿寺	鎌倉(正安2年)	壇正積二段式
重美	石造宝篋印塔	守山市守山町	東門院	鎌倉	壇正積反花式
町文	宝篋印塔	栗東町小野	万年寺	鎌倉	二段式
町文	宝樹寺宝篋印塔	野洲町小篠原	宝樹寺	鎌倉	反花式
町文	石造宝篋印塔	甲西町針	飯道神社	鎌倉	壇正積二段式
町文	"	" 朝国	朝国区	鎌倉(正和2年)	二段式
町文	宝篋印塔	安土町慈恩寺	浄巖院	南北朝	反花式
重美	石造宝篋印塔	蒲生町岡本	梵釈寺	鎌倉(嘉暦3年)	反花式
重文	寂照寺宝篋印塔	日野町蔵王	寂照寺	鎌倉	二段式
町文	石造宝篋印塔	" 木津	木津区	南北朝(康暦元年)	壇正積二段式
町文	"	" 大窪	慈眼院	南北朝(暦応2年)	壇正積反花式
町文	"	" 下迫	清寿庵	鎌倉	"
町文	"	" 北脇	法光寺	鎌倉(延慶2年)	壇正積二段式
町文	"	" 中在寺	津島神社	鎌倉(元応2年)	"
町文	"	" 西明寺	西明寺	鎌倉(乾元2年)	寄せ集め
町文	"	" 北畑	八幡神社	鎌倉(正安元年)	壇正積二段式
町文	"	" 杉	大屋神社	南北朝	"
町文	"	" 蓮花寺	信楽寺	室町	壇正積反花式
町文	"	" 増田	誓善寺	南北朝(貞治6年)	壇正積二段式
町文	"	" 川原	妙楽寺	鎌倉	"
町文	"	" 音羽	雲迎寺	南北朝(貞和2年)	壇正積反花式
町文	"	" 蔵王	聞空寺	室町	壇正積二段式
町文	宝篋印塔	永源寺町箕川	永昌寺	桃山	軒請花
町文	一弧素面宝篋印塔	愛東町青山	善勝寺	鎌倉	二段式
町文	"	" "	"	鎌倉	"
町文	石造宝篋印塔	山東町志賀谷	光明院	鎌倉	二段式(塔身欠)
町文	"	" 長岡	郷野五藤治	鎌倉	
町文	宝篋印塔	伊吹町弥高	平野神社	鎌倉	二段式
町文	"	浅井町上野	素蓋鳴神社	室町	反花式

(注) 本表は本文掲載の宝篋印塔を省略しました。なお、本表種別欄中の略号は次のとおりです。

重文—重要文化財      重美—重要美術品      市文—市指定文化財      町文—町指定文化財